

## 首里城扁額製作検討委員会

# 第 2 回 検討委員会

2021年12月 21日（火） 14:00-17:00

### 【資料 3】 文字・落款の製作

3-1.文字の製作の考え方

3-2.落款の製作の考え方

## 3-1.文字の製作の考え方

資料3

文字の製作については、前回製作した文字を基本とし、監修者の修正方針（案）を踏まえて、監修者及び職人によって原書を作成する。

今後、新たな知見の分析によって判明した扁額仕様の見直しとの連携や、同時期に琉球王国で作られた扁額事例に見られる陰刻と陽刻の双方の可能性を検討しながら、製作を行う。

(1) 前回製作「中山世土」

土 世 山 中

(2) 前回製作「輯瑞球陽」

陽 球 瑞 輯

(3) 前回製作「永祚瀛孺」

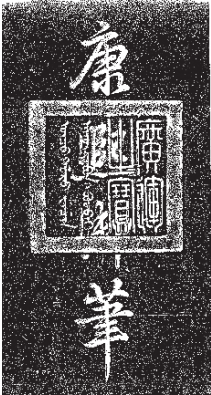

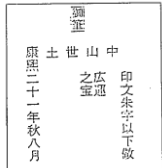

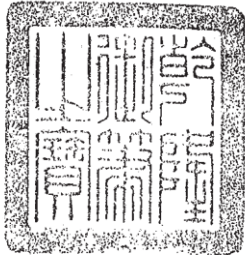
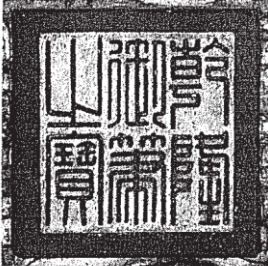




孺 瀛 祚 永

※地板の枠、文字の配置は  
前回製作のとおり。

## 3-2.落款の製作の考え方

資料3

落款の製作については、前回製作時に使用した資料及び製作した落款の画像を基に作成する。

扁額の文字	中山世土	輯瑞球陽	永祚瀛壖
落款の内容	「康熙御筆」「広運之宝」	「雍正御筆之宝」	「乾隆御筆之宝」
前回製作の参考にした資料	  <p>中国第一歴史档案館提供 落款部分のトレース (幅8.6cm)</p>  <p>『尾崎三良琉球旅行日誌』 より御筆額面の内容</p> <p>中国北京孔子廟収蔵 康熙帝御筆扁額事例より 御筆・落款の拓本</p>	 <p>『明清帝后寶璽』（紫禁城出版社）より (大きさ：13.2×13.2cm)</p>	  <p>中国第一歴史档案館提供 資料より (大きさ：12.1×12.3cm)</p> <p>中国現地調査で確認 できた落款</p>
前回製作完成写真	  <p>御筆・落款 (幅8.6cm)      額面左側の年号部分</p>	 <p>(大きさ：13.2×13.2cm)</p>	 <p>(大きさ：12.1×12.3cm)</p>
出典	『平成7年度 中国皇帝御書扁額「中山世土」製作業務報告書』（平成7年10月、(財)海洋博覧会記念公園管理財団)	『首里城正殿扁額等基本及び実施設計業務報告書』（平成13年3月、(財)海洋博覧会記念公園管理財団)	『首里城正殿扁額製作業務』（平成14年8月、(財)海洋博覧会記念公園管理財団)